

信毎賞の受賞報告

和田 清（長野市徳間 916-6）

長野県植物誌編纂委員会は、平成 11 年度の第 6 回信毎賞（信濃毎日新聞社主催）を受賞しました。その経過をご報告し、ご協力いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。

1. 受賞の理由

「信毎賞は長野県下の文化・社会・教育・産業・スポーツなどに貢献し実績顕著な個人、団体に贈り県民文化の発展に寄与することを目的とする」と信毎賞規定にあり、「長野県内に野生する全植物を対象に 40 万点の資料をデータベース化し、『長野県植物誌』を編さん、出版」したことが認められ、今回の名誉ある受賞となった。

ちなみに、これまでの受賞者は過去 5 回で個人 17 氏、4 団体である。今回は、県内各界から推薦のあった 22 件と 1~5 回で推薦された 72 件の計 94 件が審査の対象とされ、厳選の結果、1 氏 2 団体に受賞が決まった。これらは、5 名の審査委員会と 14 名の表彰委員会で決定されたものである。

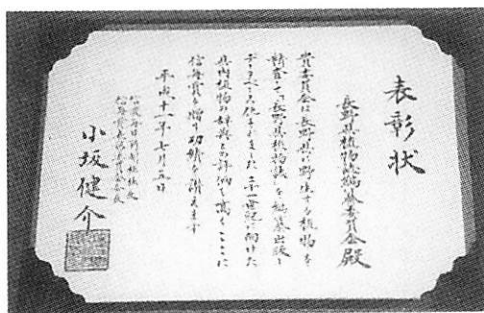
2. 申請のいきさつ

信毎賞は毎年の正月に公募され、3 月末が申請締切となっている。植物誌が刊行された平成 10 年の初頭、信毎賞へ応募したらどうかというお薦めをいただき、これを清水編纂委員長へお伝えしたところ、申請書類の作成等、この件はすべて和田にまかせるからということで準備を進めて来た。推薦者には、長野県自然保護研究所長の宮脇昭先生（横浜国大名誉教授）をお願いした。快くお引き受けいただき感謝でいっぱいである。いくつかの添付資料と共に、清水委員長が関係学会誌へ要請された、内外の書評も審査に大きく影響があったと思っている。

応募した 10 年度の受賞者は、たまたま冬季長野オリンピックの年で金メダルの覇者が総並びであった。この信毎賞は、推薦があるとその後も継続して審査対象とされるので、毎年度、長年の優れた実績をもつ諸団体がいくつも名を連ねているという。



小坂社長から信毎賞を受ける
清水編纂委員長
(左奥の女性がブロンズ像を両手に抱えている)



3. 受賞とその後

こんなわけで、まず近々にはだめだろうと忘れかけていたところ、平成 11 年度になって 5 月 24 日の夕方、信毎賞の事務局長から「内定したが受諾するかどうか、清水編纂委員長が不在で連絡が取れないから代理で返事をするよう」という突然の吉報を受けた。まさに、「寝耳に水」とはこういうことだろう。

平成11年7月5日、長野市内のホテルで第6回信毎賞の贈呈式があり、清水編纂委員長、奥原前委員長のほか金井弘夫氏、松田行雄氏、池田登志男氏と和田が出席した。吉村知事ほか多数の関係者が列席され、編纂委員会を代表して清水委員長が表彰を受けた。

ずっしりと重く黒光りした正賞のブロンズ像“耀く”を持たせてもらったとき、信毎賞の重みを私もひしひしと感じた次第である。

その後の編纂委員会で、このブロンズ像は清水委員長宅で保管してもらうことになった。副賞の百万円はこれまでの編纂事業に充て、また、多くの委員からは次の長野県植物誌資料集作成事業の基金として寄付いただいている。

以上、ご報告申し上げ、昭和49(1974)年5月の長野県植物研究会総会で長野県植物誌の作成を決定以来、標本収集や標本整理等々でご協力、ご支援くださった多くの皆様へ重ねて深謝申し上げます。



信毎賞正賞Ⅱブロンズ像

耀

く (かがやく)

(台座を含む高さ52cm、重さ約7kg)

作者の細川宗英氏は諏訪市出身で東京芸大卒業の彫刻家。新制作協会会員として生命感あふれる作品を次々と発表、高村光太郎賞、中原悌二郎賞などを受賞。わが国彫刻界の指導的役割を果たした。平成六年四月三十日、病のため急死し、このブロンズ像「耀く」が最後の作品となった。

県内で展示されている作品には諏訪湖畔(岡谷市)の「王様と王妃」、美ヶ原自然保護センター前の「空へ」などがある。

台座の題字(信毎賞)は、一色白泉氏